

No. 1105

都知事選スタート

東京・大阪をはじめ、17都道府県の知事選挙は3月19日一斉に告示された。統一選の“天王山”東京では三選出馬の美濃部さんが『この東京都の知事選は一地方自治体の長の選挙だけにとどまるものではありません。日本全体の政治のあり方が問われているのです。なんとしてでもこの危機を突破して、ファシズムをふせぎ平和で民主主義の支配する日本を政治的にこの選挙を通じて勝ちとろうではありませんか』と切々と訴えた。8年前に一度対決した松下さんは『私にとっておさまらないのは石原さんが決まりかけた時、三選出馬をやめられたり、またどういいういきさつか知りませんが、いわゆる天の声なるものを聞いて出馬された。このような進退のはっきりしない人は知事として不適當である。どうしても社共の手にとどめおかなければならぬのだという考え方にも、また何が何でも奪還しなければならぬという自民党の立場にも賛成するわけにいきません』

自民党が革新のとりでを切りくずす唯一のエースとして送りこんだ石原さんは『私は芸術家として政治家として今まで古い権力と闘ってきた。私は権力の側に一度も立ったことがない。その人間をつかまえて相手はファシストという。気に入らぬ人間をファシストというのはスターリンのやったことです。ヒットラーのやったことです。私のどこがファシストですか。今度の知事選は嘘と真実の闘いだと思う。スマイルの陰に隠された嘘、美しい言葉に隠された偽善、それと目に見えて物事をはっきり変えてゆくんだという政治にとってかえがたい真実との闘いだと思はれる』と都政の変革を訴えた。4月13日の投票日をめざして各候補は激しい選挙戦をに突入した。

海洋博を待つ本部^{もとぶ}

珊瑚礁に囲まれ汚れなき自然が広がる沖縄本部半島。しっくい塗り固めた屋根瓦、魔除けのシーサー、台風を防風林や染物の原料にもなる福木。亜熱帯の気候風土の中で今も息づく生活の知恵だ。畑は亜熱帯の気候をものがたる。パイナップルが拡がり今はさとうきびの刈り入れの最盛期だ。沖縄の経済を支える産業のひとつでもあるさとうきび。人々は、さとうきびを刈り、サバニと呼ばれるくり舟で漁に出かける。南の海は魚の宝庫。しかし、これらは沖縄の昔から今もなお続く生活の一端でしかない。本土復帰後、沖縄は今、日本の経済圏文化圏の中で、大きく変わろうとしている。本土復帰記念事業のひとつとして復帰前に計画された海洋博覧会。7月20日の開幕をひかえ、各パビリオンも外観はほぼ完成に近い。

珊瑚礁に囲まれ、おだやかな岸辺につくられた人工ビーチもできあがった。そこで人々は南の海を楽しむことができる。海をはなれて人間の歴史も文化も生活も語れない。

完成間近い夕陽の広場。東シナ海におちる陽を見て人々は何を感じ何を考えるのだろうか。海その望ましい未来。このテーマをかかげて、沖縄国際海洋博覧会は、汚れなき自然を誇る本部を舞台に7月20日から開かれる。